

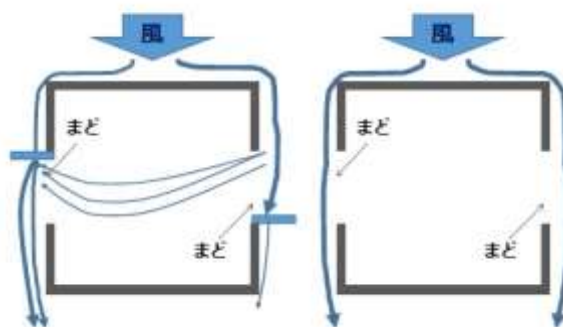
## <すまいの風通し>

人が暑い、寒い、ちょうどよい、こちよい、と感じることに影響するのは、空気の温度、湿度、壁や家具などの表面の温度、風の速さなどがあります。

人の場合、日傘をさして太陽の暑さを遮りますが、建物はどのような工夫をすればいいでしょうか。まず、ひさしを設け、さらにすだれをかけることで、暑い太陽の熱が室内に入るのを遮ります。次に、家の中にたくさん風を通すようにしましょう。風は、肌で感じるだけではなく、目（のれんの動き）や耳（風鈴の音）でも感じられます。

では、風を家の中にたくさん風を通すためには、どうしたらいいでしょうか。まず、葎戸や欄間を使えば、風がとおりやすくなります。さらに、窓の位置や開け方を工夫すれば、より風とおしをよくすることができます。例えば、風が入ってくる方向の窓を大きく開け、風が抜ける方は小さく開けることで、多くの風が早く流れるようになります。

・ウィンドキャッチャーをつけたらどうなるか



風が吹いてくる方向に窓がない場合は、ウィンドキャッチャーを付け、ぶつかった風を部屋の中に取り入れる方法もあります。さらに2階建以上の家の場合は、吹き抜けを設け、高さの違う窓を開けたほうが、風が少ない時にもよく通ります。



また、庭や通りに水を撒いて、地面の温度を下げることで涼しい空気を取り込む「打ち水」も、暑い夏を涼しく過ごす工夫のひとつです。

講師：伊庭 千恵美氏